

# 武蔵野市新型コロナウイルス感染症対策専門家会議 第2回全体会

(議事要録)

- 1 開催 令和3年8月23日(月) 午後7時～8時  
オンライン開催

## 2 委員(敬称略・五十音順)

氏名	職名等	
田原順雄	一般社団法人武蔵野市医師会 会長	座長
長澤正之	日本赤十字社武蔵野赤十字病院 小児科部長 病院感染管理室長・感染対策チーム リーダー	副座長
倉井大輔	杏林大学医学部付属病院感染症科診療科長 感染対策室室長	
田原なるみ	東京都多摩府中保健所 所長	
中嶋伸	一般社団法人武蔵野市医師会 副会長	

※武蔵野市医師会の林良寛理事がオブザーバー参加

## 3 概要

### (1) 2学期開始に当たっての教育活動の対応について

教育部長より、学校あての留意事項通知「緊急事態宣言再延長下における2学期開始に当たっての教育活動の対応について(案)」を説明。委員から案に対する意見や、宿泊行事の実施、部活動、学校開放等に関するご意見をいただいた。

#### ①留意事項案について

- 学校における感染対策をしっかりと保護者に通知することが重要。
- 事前に感染者が出た場合の対応方針、「学級閉鎖」、「学年閉鎖」という基準の提示が必要。
- 小中学校の取り扱いは同じでよいが、中学生の方が、行動範囲が広い分注意が必要。
- 提示された対応案で問題はない。ただし、状況によっては休業のハードルを低くする手段もある。

#### ②宿泊行事の実施について

- 一緒に過ごす時間が長いほど感染のリスクは高くなる。コントロール可能な人数で宿泊行事をすることは難しいと思うので、実施は勧めない。
- 無理だと思う。授業に関しても本来は延期が望ましく、他の自治体の様子を見てからでも良いと思っている。
- 当面、医療体制に変化がないようであれば止めた方がよい。

### ③部活動の実施について

- 屋外は提示された案で十分対策はされていると思う。忘れてはいけない注意点として、更衣室の換気と、それがルール化されているか確認が必要。室内競技に関しては適切な距離と換気、適切な人数で行う対策で可能と思う。
- 部活以外で陽性がでた場合、誰がどの部活に入っていて濃厚接触者が誰になるのか、すぐにわかるシステムが必要。この場合、部活動を止めるタイミングが重要。
- 体がぶつかり合う競技に関しては、プロでもクラスターが出ている。検討が必要。
- やるとすれば提示された内容で問題ないが、本来は中止が望ましい。

### (2) 学校施設開放について

- 学校生活だけに絞れば、子どもと交差がなければ問題ない。ただし、感染がおこった場合、だれが責任と対策をとるのか等について確認しておく必要がある。
- 今、どうしても必要でなければ、やめた方がよい。
- 人が集まる、密になる可能性があるのなら止めた方がよい

### (3) 2学期の開始時期について

- 個人的な印象として8月に入って大きく潮目が変わり、医療現場としてかなり危機意識が高くなっている。
- 学校の再開が感染に繋がるという科学的な根拠はないが、現状を考えると2学期の開始は慎重に検討すべきと思うが、教育の機会を奪ってしまうことにもなるので、どちらに重きを置くかが問題である。
- 子どもの感染ルートの多くは家庭内感染であり、社会は普通にまわっていて、学校だけやらないこと自体に科学的な妥当性がないような気がする。色々な意見があるのでどう考えていくかは難しい。
- 子どもたちが朝起きて、学校へ行くリズムを作ることにより、免疫力を高めるということもあるので、学校を再開する意味もある。ただし、全ての活動を再開ということではなく、個人的には最小限の授業で行うことが良いのではないかと思う。
- 学校を始めて見て、学級閉鎖があるようなら考えるということでよい。

以上